

# 令和7年度一般社団法人日本サステナブル建築協会事業報告

## 第1 運営に関する事項

### 1. 会員の状況

会員の種類		令和7年度末 会員数
正会員	個人	7人 (7)
	団体	23団体 (24)
	計	30 (31)

※ ( ) 内は前年度末の会員数

### 2. 会議の開催

#### (1) 総会 (令和7年5月29日)

「令和6年度事業報告及び決算」が承認され、「役員を選任」(辞任した理事3名の補選)が行われ、「令和7年度事業計画及び収支予算」が報告された。

#### (2) 理事会

##### ① 第1回通常理事会 (令和7年5月21日)

「令和6年度事業報告(案)及び決算(案)」及び「令和7年度定時総会招集」が議決され、「令和7年度業務執行状況報告」が報告された。

##### ② 第2回通常理事会 (令和8年3月13日)

「令和8年度事業計画及び収支予算」が議決され、「令和7年度業務執行状況報告」が報告された。

## 第2 事業実施に関する事項

### 1. 住宅・建築物の省エネルギー性能の技術的検討

建築物省エネ法の円滑な普及に寄与するとともに基準強化に対応するため、新たに開発される設備や建材等の省エネ性能評価法の検討、計算プログラムの運用方法の検討、一次エネルギー消費量計算法の実務的運用方法の反映、住宅・建築物の外皮性能評価の簡易化手法、各種給湯、暖冷房システムの評価手法の開発・検討等を実施し、WEBプログラム等に反映した。

## 2. 建築環境総合性能評価システム（CASBEE）の開発整備

CASBEE の改訂の検討（CASBEE-住まい系（低層共同）、建築、不動産、ウェルネス系の基準評価の検討）を実施し、うち低層共同（新築）、ウェルネスオフィス不動産評価ツールの正式版を作成した。

また、GRESB（不動産会社や投資運用機関のサステナビリティ配慮の状況を示す国際的ベンチマーク）の新基準への対応等について検討し、認定申請を行うとともに、CASBEE-不動産評価マニュアルの英語版の公開とCASBEE 制度の英語版パンフレットの更新を行った。

## 3. 調査研究

### （1）SDGs スマートウェルネス住宅に係る調査研究

#### ① SDGs スマートウェルネス住宅の研究開発

住宅と健康に関する国内外のガイドライン類の最新情報の収集と整理を行い、室内温湿度基準案の検討、設計支援ツールの開発を行うとともに、その成果をまとめて「健康に暮らす住まいの設計ガイドマップ～生活環境病の予防に向けて～」を出版した。（12月）

#### ② 居住環境変化による居住者の健康状況の変化等に関する調査

住宅の居住環境改善が疾病予防、介護予防等にもたらす効果を明らかにするため、住宅の改修前後の温熱環境と居住者の健康状態に関するデータ収集を全国規模で収集することを目的に、既改修者に対する追跡調査として改修10年後調査を行った（89世帯）。

また、関東近辺の集合住宅における窓改修前後の居住者の健康状況の変化等に関する調査を実施した（59世帯）。

### （2）SDGs スマートウェルネス建築の調査研究

SDGs の達成に建築物の観点から貢献することを目的とし、次世代のオフィスを環境品質のみならず、知的生産性・健康性を加えて評価するウェルネスオフィスの概念を多用途建築物に展開する検討を行い、不動産便益検討、国内外のウェルネス建築等に関する動向調査を行った。

また、ウェルネスオフィスに関する概念・事例を発信する書籍の企画・検討を行った。

### (3) LCCM 住宅・建築物の調査研究

一般建築物への LCCM 化の適用に向け、中層共同住宅及び戸建住宅改修の LCCM 適合判定ツール開発を実施し、民生業務部門における CO<sub>2</sub> 排出量の将来推計手法の検討、シナリオ別 CO<sub>2</sub> 排出量の推計を行った。

また、解体・再利用段階での CO<sub>2</sub> 排出量等に関する実証研究に向けて、2011 年につくばの建築研究所構内に建設した LCCM 住宅デモンストレーション棟解体計画を策定した。

### (4) ゼロカーボンビルの推進

ゼロカーボンビル (LCCO<sub>2</sub> ネットゼロ) 推進会議において、建築物のライフサイクル全体での CO<sub>2</sub> 排出量を評価するツール (J-CAT) 等の検討を進め (IBECs と共同実施)、戸建住宅を算定対象とする J-CAT-戸建 試行版を公開した (11 月)。

また、これと並行して、国における建築物のライフサイクルカーボン算定・評価の制度化に向けた検討への支援を実施した。

そのほか、ドイツ連邦建築都市研究所の研究者等と、ゼロカーボンビルの取り組みに関する意見交換を対面又はオンラインで行った (4 月、7 月、9 月、12 月)。

## 4. 省 CO<sub>2</sub> 建築物等の普及支援

サステナブル建築物等先導事業 (省 CO<sub>2</sub> 先導型) 及び既存建築物省エネ化推進事業に関する評価補助業務として、応募 60 件の審査を実施した。

## 5. 環境・省エネルギー関連施策に関する普及推進

(1) 「サステナブル建築都市国際会議 2025 東京大会 (SBE25 Tokyo)」に共催団体の一つとして参画し、大会 (9 月) の成功に貢献した。

(2) 「第 32 回住宅・建築物の省 CO<sub>2</sub> シンポジウム」を開催した (10 月)。

(3) SDGs スマートウェルネス住宅研究の成果として、「健康に暮らす住まいの設計ガイドマップ～生活環境病の予防に向けて～」を出版し (12 月)、普及推進策としてシンポジウム「健康に暮らす住まいのつくり方 生活環境病の予防にむけて」を開催した (3 月)。

(4) 「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 第 10 回報告会」を開催した (2 月)。

貸借対照表

令和8年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	42,590,377	22,221,203	20,369,174
未収金	250,561,083	259,317,051	△ 8,755,968
出版物在庫	3,340,781	0	3,340,781
流動資産合計	296,492,241	281,538,254	14,953,987
2 固定資産			
特定資産			
建物	1	1	0
建物附属設備	2	2	0
固定資産合計	3	3	0
資産合計	296,492,244	281,538,257	14,953,987
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	12,937,243	10,856,555	2,080,688
預り金	1,073,927	1,195,283	△ 121,356
流動負債合計	14,011,170	12,051,838	1,959,332
負債合計	14,011,170	12,051,838	1,959,332
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	3	3	0
(うち特定資産への充当額)	(3)	(3)	0
2 一般正味財産	282,481,071	269,486,416	12,994,655
正味財産合計	282,481,074	269,486,419	12,994,655
負債及び正味財産合計	296,492,244	281,538,257	14,953,987